

熱水性細菌由来のネイティブフルクトース-ビスリン酸アルドラーゼ

Cat. No. NATE-1152

Lot. No. (See product label)

はじめに

概要 フルクトース-ビスリン酸アルドラーゼ (EC 4.1.2.13)、一般にアルドラーゼと呼ばれるのは、可逆反応を触媒する酵素で、アルドールであるフルクトース 1,6-ビスリン酸をトリオースリン酸であるジヒドロキシアセトンリン酸 (DHAP) とグリセルアルデヒド 3-リン酸 (G3P) に分解します。アルドラーゼは、フルクトース 1-リン酸やセドヘプトロース 1,7-ビスリン酸などの他の (3S,4R)-ケトース 1-リン酸からも DHAP を生成することができます。グルコネオジェネシスとカルビン回路は、同化経路であり、逆反応を利用します。解糖系は、異化経路であり、順方向の反応を利用します。アルドラーゼは、メカニズムによって二つのクラスに分けられます。

用途 ジヒドロキシアセトンリン酸と線状アルデヒド間の炭素結合形成。

別名 アルドラーゼ; フルクトース-1,6-ビスリン酸トリオースリン酸リアーゼ; フルクトースビスリン酸アルドラーゼ; フルクトース二リン酸アルドラーゼ; D-フルクトース-1,6-ビスリン酸D-グリセルアルデヒド-3-リン酸リアーゼ; EC 4.1.2.13; 9024-52-6

製品情報

由来 好熱性細菌

形態 凍結した液体

EC番号 EC 4.1.2.13

CAS登録番号 9024-52-6

最適pH ~6.0

熱安定性 ~100%の安定性を100°Cで1時間維持

緩衝液 20 mM トリス-HCl (pH 7.5)、20 mM KCl

単位定義 1単位は、基質としてフルクトース1,6-ビスリン酸を使用して、1分間に1μmolのNADH ($\epsilon_{340}=6.22 \text{ mM}^{-1}\text{cm}^{-1}$) を酸化する酵素の量として定義されます。

保管・発送情報

保存方法 -20°Cで保管してください